

## 令和7年度 第1回吉田町総合計画等審議会（議事録）

### 1. 開催日時

令和7年8月29日（金） 14:00～16:10

### 2. 開催場所

吉田町役場2階 町民ホール

### 3. 出席者

氏名	役職等	備考
中村 成宏	吉田町教育委員会委員	
増田 学	吉田町商工会長	
村松 直樹	ハイナン農業協同組合代表理事専務	
藁科 昌利	静岡うなぎ漁業協同組合専務理事	
田島 逸雄	吉田町社会福祉協議会長	
黒田 康弘	住吉区自治会長	
伊吹 雅夫	片岡区自治会長	
白石 寿一	北区自治会長	
村田 佳隆	吉田町さわやかクラブ連合会長	
松浦 セツ子	吉田町女性団体連絡協議会長	
田中 啓	静岡文化芸術大学教授	会長
加藤 昭	(株)静岡銀行吉田支店長	
小澤 和史	島田掛川信用金庫吉田支店長	
飯田 千恵子	(株)FM 島田放送番組審議会委員	
岩野 真依	保育園保護者(さゆり保育園)	
澤野 康之	島田公共職業安定所長	

(敬称略)

※ 大石千恵子委員、松浦光紀委員、松浦祐之委員、鈴木佐知子委員が欠席。

#### 4. 町長あいさつ

- ・第6次吉田町総合計画前期基本計画を策定し、1年半が経つところである。
- ・「豊かで活気にあふれ心を魅了するまち吉田町」とした将来都市像に向かって、各事業が実現するかどうか、進捗管理報告書を確認いただきながら、御意見を賜りたい。
- ・令和2年度からを期間とした第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略が令和6年度で終了した。なぜ、このような結果となったのか、真剣な御意見を賜れば嬉しく思う。
- ・この2つが吉田町の大きな計画となるため、吉田町のまちづくりが上手くいっているのか、最終的に上手くいったのか、御批判も含めて賜りたく思う。

#### 5. 会長あいさつ

- ・いかなる自治体でも、その自治体におかれた状況をきちんと把握し、必要な策を講じることが重要である。
- ・そして、身の丈にあった運用をしていくことにより、持続可能な自治体運営ができていくのではないかと考えている。
- ・総合計画の進捗管理と総合戦略の総括評価という2つの計画を皆さまに確認いただく。
- ・評価から得られた結果を行政に反映し、改善していくことによって、吉田町での持続できる可能性がさらに高まっていくと思うので、本日は忌憚ない御意見をいただきたい。

#### 6. 委嘱状の交付

新委員の委嘱期間は、吉田町総合計画等審議会条例第5条に則り、前任者の残任期間とするため、令和8年3月31日までとする。

本来であれば、町長から委嘱状の交付をして委員になっていただくが、時間の都合上、委嘱状は席に置く形で委嘱をさせていただく。

#### 7. 自己紹介

事務局からの自己紹介の後、委員名簿の順に自己紹介を行った。

#### 8. 副会長の選出

互選より、川尻区自治会長の松浦祐之委員が各委員の承認を受け、副会長に選出された。

## 9. 議事

### 9.1. 第6次吉田町総合計画前期基本計画進捗管理報告書について

事務局より、「資料No.1 第6次吉田町総合計画前期基本計画進捗管理報告書」について説明をした。

#### ● p.12 指標No.11 消防団員数 について

##### 【〇〇委員】

- ・町内事業者に対して優遇措置を周知するとあるが、町外事業者に対しては何か実施しているか。

##### →【事務局】

- ・まずは町内の事業所に協力をいただきながら、消防団の活動を広めているところ。また、消防団員が安心して活動できるように福利厚生を充実するとともに、消防団員の報酬の引き上げを行い、活動を支援している。

##### 【田中会長】

- ・目標値について、令和9年度に団員数150人と設定しており、令和8年度目標値126人から一気に増加して設定されている。

##### →【事務局】

- ・消防団員の定数に関する条例の中で定員150人としており、目標値としている。令和6年度の実績値からすると、ハードルが高いところではあるが、確保に向けて取り組んでいるところ。

##### →【田中会長】

- ・150人いないと安全が守れないのか、そうではないのかという見極めが重要である。

#### ● 第5章全体 について

##### 【〇〇委員】

- ・高齢者が増加しているのに対して、地域の集う場が減少している現状がある。孤立につながるのではと思う。何らかの対策をしていかないと、このような状況が進んでしまうのでは。

##### →【事務局】

- ・吉田町社会福祉協議会が窓口となり、コミュニティの場を持つことを推進する「通いの場」という事業がある。様々な方と交流しながら、みんなで元気に過ごすことを促す事業である。

##### →【〇〇委員】

- ・4自治会で18団体くらいあるが、人員が抜けていっている。原因は新しい人が入ってこないことと、役員という役割に対して負担に感じるところにある。老人福祉法で高齢者がいつまでも地域と関わって元気に生活していくという基本的な内容に基づいて組織されていることが認識されていない。各クラブにお願いして、会員数を増やすように働きかけてはいるが、なかなか増えないのが現状。行政も福祉課で取り組んでくれているが、あともう一つ、プッシュする力をいただけるとありがたい。

→【事務局】

- ・福祉課を中心に、介護予防や交流の場が持てるような機会の提供など、模索しながら実施しているところではある。もう一つプッシュする力をとという御意見もいただいたので、担当課とも共有し、今後展開していくことができたらと思う。

● p. 10 指標No.6 高齢者を対象とした交通安全教室への参加者人数（累計） について

【〇〇委員】

- ・どのような形で教室を実施したのか。教室が開かれたという認識がなかった。

→【事務局】

- ・高齢者向けの交通講話を、令和6年度は10月に中央公民館で開催した。また、危険予測のトレーニングについても開催した。委員の御意見から、町の事業が住民に届いていないということであり、課題である。各団体に向けて直接アプローチする方法を考えていく必要があると認識する。

● 評価及び目標値について

【〇〇委員】

- ・「A」評価が付いている指標の中には、計画最終年度である令和9年度の目標値に達しているものがある。令和9年度の目標値を更に高めていく（目標値を変える）ことはできないのか。

→【事務局】

- ・評価の方法としては、令和6年度目標値に対して実績値の進捗状況を評価したものとなる。今後、前期基本計画中の3年間に事業を実施していく中で、実績値が変動する可能性はあり、まずは、単年度目標値に向けて事業を実施し、計画最終年度に向けてビジョンを持ちながら進めていきたい。

→【〇〇委員】

- ・例えば、今年度は「A」評価であった場合、安心や満足にとどめるのではなく、継続的に事業の進捗を見ながら、最終年度に向けた意識を持つことが重要であると思う。

● p. 16 指標No.20 1人1日当たりの可燃ごみの排出量 について

【〇〇委員】

- ・令和6年度中にリサイクル先進地へ視察に行ったとあるが、取組について吉田町との違いや吉田町ではどのように取り組んでいくのか。

→【〇〇委員】

- ・吉田町と一番異なるのが、生ごみや選定ごみを堆肥化しており、堆肥化率が60%である。山奥にある施設も見学したが、少し臭いもあった。吉田町でここまでの設備を作るのは難しいということで、今実施しているのが、服のリサイクルである。各自治会の会館に回収ボックスを設置し、再利用できる服を集め、海外に売るということを実施している。
- ・来年は、厚紙も資源物として回収していく。ビニールが付いた封筒やホッチキスが付いた段ボールなど、分別処理が大変な資源も回収できるように業者と連携して都市環境課が計画しており、北区から先行して動いていく。

→【事務局】

- ・ごみも資源であるという意識啓発が必要だと認識している。分別方法についてまとめた冊子を多言語で制作した。服のリサイクルにしても、ごみの分別にしても、原点である意識啓発を図るところから、そしてどのようにごみ減量の施策へ反映させていくかは今後も検討していきたい。

→【〇〇委員】

- ・ごみ減量の方法としては資源化もあるが、もう一つはごみ袋の値段についても検討が必要になってくるのではと思う。1枚当たりの単価を上げるのか、今の容量を少し減らすのか方法があるのでは。

→【事務局】

- ・施設の維持管理も観点も含めて、検討させていただければと思う。

● p. 48 指標No.87 学習ホール長寿命化計画の策定 について

【〇〇委員】

- ・令和9年度に目標値100%ということは、令和9年度に計画を策定するということか。大規模な修繕も必要となった場合に学習ホール他2施設の修繕計画を令和9年度中に策定し、その後修繕が実施されていくという意味合いか。

→【事務局】

- ・令和9年度に計画を策定し、その後、本格的に事業が動いていく流れになる。

→【〇〇委員】

- ・例えば、新しく建て替えるということも含めてという意味か。

→【事務局】

- ・建て替えありきではなく、あくまで今ある既存の施設をどのように長寿命化していくかという点に重きを置く計画となる。

→【田中会長】

- ・評価の判断が難しいところでもあるため、計画の策定に向かってどのくらい進んでいるか定性的に評価の背景欄にて、丁寧な説明を記載するようにしていただきたい。

● p. 46 指標No.82 全国学力・学習状況調査の県平均正答率以上の科目数の割合 について

【田中会長】

- ・例えば、今まで点数が良くなかった生徒が、平均まではいかないにしても個々としては正答率が上がったことに対する努力を測ることができない。また、県の平均が上がれば個々の頑張りが反映されず、達成感が持ちにくい指標となっている。吉田町は教育に力をいれている自治体と認識しているため、生徒の学力の変化を把握できるような評価の方法や指標がないか。今後の課題としていただきたい。

● p.3 分野の主な目標に対する評価（評価の公表） について

【田中会長】

- ・目標を達成しているかどうかで「A」「B+」「B」「C」に分かれ、本日の資料にも「B+」と「B」の区分が評価に示されている。現時点で「B+」も示されているため「A」「B」「C」に集約する必要があるのか。

→【事務局】

- ・従来から3段階のレベルで評価していたことが名残としてある中で、昨年度の第5次吉田町総合計画後期基本計画の総括評価では「B+」や「B-」という視点が加わった。評価全体を見た際に、進捗度が良かったもの、中間だったもの、良くなかったものの3段階で聞かれることが多かったため、「公表」の欄を設けていたが、現段階で既に「B+」を示しているため、そのままにするもの確かにそうだと思う。

● p.36 指標No.61 2次医療圏での救急医療体制数 について

【〇〇委員】

- ・令和6年度の実績値にある救急医療体制数の「3体制」とは具体的にどのようなものか。

→【事務局】

- ・1つ目に休日の医療にかかることができる体制、2つ目に日中にかかることができる病院、3つ目に夜間の医療体制。この3つを引き続き維持するように努める指標である。

→【田中会長】

- ・3体制の内容について、記述で分かりやすく説明を加えていただきたい。

● p.36 指標No.60 内科診療所数 について

【〇〇委員】

- ・令和6年度の実績値にある「7箇所」はプラスマイナスして7箇所だったのか、現状が維持されているということか。

→【事務局】

- ・増減したとは聞いておらず、現状、内科診療所としてあるクリニックや医院をカウントして7箇所となっている。

→【〇〇委員】

- ・医師の高齢化率が増えており不安を感じている。また、他の指標の中に妊娠出産等応援助成事業とあるが、町内に産科の医院がないことも不安を抱える部分が大いなのではと思う。志太榛原だけに限って考えると限界があるのでは。

→【事務局】

- ・医師が不足していることは認識しており、危機感を持つところ。実績値の7件の中にも休診中で、他の医院へ患者が移行することで対応に手一杯な状態であるということも聞く。町ではクリニック開設に際し補助制度を設けており、吉田町での医療体制を維持していきたい。また、広域的な体制という点においても近隣市町と連携していきたい。

## 9.2. 第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略総括評価結果報告書について

事務局より、「資料No.2 第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略総括評価結果報告書」について説明をした。

- p.13 基本目標3 分野(2) 新たな観光スポットの創出  
(KPI：展望台小山城入場者数) について

### 【〇〇委員】

- ・静岡空港隣接市町連携事業費補助金が令和7年度に策定された。交付取扱要領の第2項にある補助事業の採択要件等には「(1) 賑わい拠点の整備」がある。新たな集客施設の整備や既存集客施設の改修等で採択される内容となっている。第3期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略では「観光資源・インフラ整備」として展望台小山城駐車場整備という項目が記載されており、「しらすのまどぐち」整備について、補助金活用を検討できないか。

### →【事務局】

- ・町の観光資源が少ない中で小山城はキーとなる施設である。財源確保を模索しながら事業展開を進めていくことは重要であり、県とも協議しながら町の財政状況も含めて総合的に検討していきたい。

- p.10 基本目標2 分野(2) 創業支援活動の強化 について

### 【〇〇委員】

- ・創業支援についてはまちづくり公社で、創業後の支援については商工会で、という形で連携しながら今後も取り組んでいきたい。分野の評価欄には「関係機関と連携して相談しやすい環境整備に努めた」とある。商工会の建物が老朽化しているとともに、相談を受ける場所としても手狭な状況であり、町からも支援をいただきたい。

### →【事務局】

- ・建物の建て替えに関して町としてどこまで協力できるのかについては、補助金の関係からも協力できる場所があれば協力していきたい。

- まちづくり住民意識調査 について

### 【〇〇委員】

- ・この計画を策定したことにより、住民の満足度向上や行政サービスをどのように評価しているかが問題であると思う。令和4年度にまちづくりに関する住民意識調査を行ったようであるが、調査結果と計画策定とを関連させているのか。

### →【事務局】

- ・住民の満足状況を確認するのが住民意識調査であり、直近では令和4年度に実施した。この調査結果を反映しているのが、町の総合計画になる。令和4年度の調査結果を鑑みて令和5年度中に総合計画を策定し、令和6年度にスタートしたのが現在の第6次吉田町総合計画前期基本計画である。そして、後期基本計画が令和10年度からスタートするに当たり、策定前には再度住民意識調査を実施する予定となる。

→【〇〇委員】

- ・調査した結果を分類化した方が分かりやすいこともあると思う。例えば、若年層での傾向や吉田町外から移住した方など、クロス集計の結果は分かりやすいと思う。

→【田中会長】

- ・年代別など属性ごとの集計は持っていると思うが、どの程度のデータを計画に反映できているかは、実際のところあまり使えていないのが、多くの自治体の実態である。事務局には、データを細かく確認してくださいという提案として受け取ってほしい。

● p. 6 基本目標 1 分野(1) シーガーデンの整備促進  
(KPI：多目的広場施設整備率) について

【〇〇委員】

- ・総括評価欄には「一部区域については民間事業者の参入による事業展開を計画していたが、計画期間内での民間事業者参入には至らず」とある。具体的にどのようなことを予定していたのか。

→【事務局】

- ・町として具体的に何か特化したものを計画していたわけではなく、多目的広場を活用して民間事業者に事業を実施してもらうことを予定していた。現在、吉田公園の南側用地について、多目的広場も含めて官民連携の視点から活用を検討している。

● p. 12 基本目標 3 分野(1) 賑わい創出のための取組強化 について

【〇〇委員】

- ・シーガーデンシティ構想に関わる総括評価や今後の方向性の欄において、カタカナの用語が多いため意味が通じない。固有名詞は仕方ないにしても説明としての記述については、できるだけ減らしてもらいたい。

→【事務局】

- ・制度の名称などの単語については対応が難しいところもあるが、注意書きや説明欄を加えるなどで検討したい。

以上